

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3670400013
法人名	社会福祉法人 双葉会
事業所名	双葉会高齢者グループホーム
所在地	阿南市見能林町南林260-15 (電話) 0884-22-2913

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 9月 18日

【情報提供票より】(平成19年 8月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 3月 19日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
	利用定員数計 9 人
	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 850円		

(4) 利用者の概要(8月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.22 歳	低 75 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原田医院 土肥歯科医院
---------	-------------

徳島県 双葉会高齢者グループホーム 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国定公園内にあり白砂、青松の自然に恵まれた環境のもと、明るく、風通しのよいホームである。管理者・職員はグループホームの理念・役割をよく理解し、「利用者と共に」という考えのもと、認知症高齢者の日常生活がより家庭的なものとなるよう、日々努力されている。管理者の永年の福祉にかける情熱は深く地域でも多くの役職を果たされ、地域活動に尽力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価において特に改善課題はない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 法人の代表者および職員は、全員で評価の意義を理解し、評価を通して具体的な改善に取り組み、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の家族、地域の民生委員、行政の方々、職員がメンバーとなり、2ヶ月に1回の開催時にはホームの設備や行事の説明、災害時の対応計画等について話をしている。ホームへの苦言、運営についての意見は真摯に受け止め検討し、改善へ繋げている。また同時に機会を見て、災害時の救援依頼等をしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、要望等は真摯に受け止め、ホーム内で検討し、また第三者委員を置き、適切に判断・対応をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 併設のデイサービスやケアハウスの利用者とも、行事等で交流をはかっている。町内の小学生の訪問があったり、買い物、散歩に出かけた時等に町内の方達とはよく会話をしている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の特徴を理解し、その中でその人らしく過ごし続ける事のできるような理念を作り上げ、その理念はホームの玄関にわかりやすく掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員はホームの理念や介護の心得十ヶ条、仕事の仕方、職員の努力目標等を組み入れた「グループホームのいろは」(小冊子)を必携し、朝礼・終礼時に管理者と共に話し合い、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの管理者は地域の中で数多くの役職を果たされ、事業所は、自治会、老人会行事等、地域活動に参加し、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、評価を通して具体的な改善に取り組み、サービス向上に繋がっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、利用者の状態やサービス状況報告の他、家族・地域委員の方々の意見・気づきを参考にし、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会をとらえ、市関係者ともよく話し合い、市と共にサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に利用者の暮らしぶりや、健康状態その他について報告している。また平成16年より「鳩の便り」を作り、その月のホームの行事や生活の様子等を記事として発行し、定期的にそれぞれの家庭に送付し報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、不満、苦情等は苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員を明白にし、問題解決にあたっている。解決事項は第三者委員立ち会いのもと話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動による影響は少ないが、なおかつ声かけや説明によって職員異動による利用者へのダメージをより少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が立てられており、法人内外での研修にもすすんで参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流はされていない。	○	地域での同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや、勉強会を通じて、より良いサービスの質の向上に努力されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は、施設長、本人、家族との話し合いを十分に行い、本人の納得のもと、徐々にホームでの生活に慣れていけるよう細心の注意をもって対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で職員と共に助け合い、喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの人格を尊重し、個人の普段の行動より希望、意向を把握し、本人本意に考え、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス、担当者会議を設け、本人、家族、必要な関係者と話し合い、本人がより良く暮らせるための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直しをしており、状況に変化が生じた場合は、本人、家族の意見も交え、本人にあった介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を大切に、納得が得られたかかかりつけ医に適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望をもとに、かかりつけ医とよく話し合い、全員で重度化や終末期に向けた方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルを作り、それをもとに一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は旬のものや自分たちの畑でとれた野菜をとりいれ、調理、盛りつけ、配膳、片付け等出来ることを利用者と職員と一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日、時間帯は決めておらず、法人敷地内に作られた「きんかんの家」での入浴等一人ひとりの希望をとりいれ、楽しんでいる。また今夏は猛暑のため発汗が多く、度々入浴の出来ない利用者には、職員が毎日のように利用者の背部を温湯で清拭をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かした役割をもち、楽しみ事、気晴らしができ、日々が楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、広い敷地内を散歩したり、地域の神社を参拝したり買い物にもよく出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の行動によく目配りをし、また法人の責任者も度々ホームを訪れ、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルをもとに訓練をしている。また、日頃より地域の人々の協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事および水分摂取量をチェックし、利用者の健康面の支援をしている。献立は利用者の希望をいれながら、法人の栄養士の指導を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には大きな机、ソファ等が置かれ、利用者がくつろげるよう工夫されている。また、換気、採光にも十分な配慮がされている。大きなテレビも置かれ、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や、小物入れが置かれ、仏壇を持ち込み、毎朝仏前にご飯、お茶を供えている利用者もいる。災害避難時、頭部保護のために綿の入った布で作った頭巾が各部屋に整備されている。		